

弾痕 松橋空襲の跡か

宇城市・永代鉄橋

戦跡ネット
30カ所確認

「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」(高谷和生代表)は5日、宇城市の永代鉄橋の橋脚に残る機銃の弾痕などを調査した。終戦直前、米軍機が行った「松橋空襲」の跡とみられる。

松橋空襲は1945年7月27日と8月7日、同10日の計3回実施された。高谷代表(66)が、空襲に関わったとされる米軍機が八代海に墜落し、搭乗員が処刑された。永代鉄橋は松橋町豊崎の浅川に架かる旧国鉄の鉄橋で、現在は廃線となっている。



爆撃の痕跡が残る永代鉄橋を調査するくまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークのメンバー＝宇城市

「重要な鉄道遺産」

橋脚(幅約6㍎、厚さ約1・5㍎)と橋台(幅約4㍎)が2基ずつあり、メンバーはぬかるむ川岸に足を取られながら、痕跡を丹念に観察し、細部を計測。これまでの調査で機銃弾や爆弾の破砕痕約30カ所を確認した。

「橋というインフラを狙った攻撃だったのだろう」と高谷代表。「状態がよく残っており、身近な戦跡といえる。鉄道遺産としても重要。多くの人に知ってほしい」と話している。調査結果は今夏にもまとめる。

(飛松佐和子)



機銃の弾痕が残る永代鉄橋